

(提案10)

公開シンポジウム「学士課程教育における政治学分野の参照基準」の開催について

1. 主催 日本学術会議政治学委員会、政治学委員会政治学分野の参照基準検討分科会
2. 日時 平成26年2月10日(月) 10:00～12:00
3. 場所 日本学術会議講堂
4. 分科会の開催 開催予定あり

5. 開催趣旨

日本学術会議は、文部科学省高等教育局長からの審議依頼に応じて平成22年にとりまとめた回答「大学教育の分野別質保証の在り方について」に基づき、自ら教育課程編成上の参照基準を策定する作業を、関連する分野別委員会においておこなっている。政治学委員会は「政治学分野の参照基準検討分科会」において審議をおこない、このたび「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準政治学分野」の原案がまとめられた。参照基準は、政治学の教育課程を設置する大学および政治学教育に関心のある方々に広く利用していただくことが期待されている。このシンポジウムは、日本学術会議内外から広く意見をいただき、それを最終案に反映させるために開催するものである。

6. 次第

司 会：大芝 亮*（日本学術会議連携会員、一橋大学大学院法学研究科教授）

開会あいさつ：小林 良彰*（日本学術会議副会長、慶應義塾大学法学部教授）

開催趣旨説明：猪口 邦子*（日本学術会議第一部会員、参議院議員）

I 講演（10:20～11:00）

「政治学分野の参照基準について」

杉田 敦*（日本学術会議第一部会員、法政大学法学部教授）

苅部 直*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院法学政治学研究科・法学部教授）

II 討論（11:00～11:20）

関係学会からのコメント：

新川 達郎（日本公共政策学会会長、同志社大学大学院総合政策科学研究科教授）

酒井 啓子（日本学術会議第一部会員、日本国際政治学会理事）

長、千葉大学法経学部教授)

Ⅲ 討論および会場からの質問への応答(11:20～11:55)

猪口 邦子* (日本学術会議第一部会員、参議院議員)

河田 潤一* (日本学術会議第一部会員、神戸学院大学法学部教授)

小林 良彰* (日本学術会議副会長、慶應義塾大学法学部教授)

佐々木 信夫* (日本学術会議第一部会員、中央大学大学院経済学
研究科教授)

杉田 敦* (日本学術会議第一部会員、法政大学法学部教授)

羽場久美子* (日本学術会議第一部会員、青山学院大学大学院国際
政治経済学研究科教授・総合研究所プロジェクト研
究代表)

縣 公 一郎* (日本学術会議連携会員、早稲田大学政治経済学術
院教授)

大芝 亮* (日本学術会議連携会員、一橋大学大学院法学研究
科教授)

苅部 直* (日本学術会議連携会員、東京大学大学院法学政治
学研究科・法学部教授)

谷口 尚子* (日本学術会議連携会員、東京工業大学大学院社会
理工学研究科准教授)

真淵 勝* (日本学術会議連携会員、京都大学公共政策連携研
究部教授)

Ⅳ 総括コメント：

北原 和夫 (日本学術会議特任連携会員、東京理科大学教授)

7. 関係部の承認の有無：第一部承認

(*印の講演者等は、主催委員会及び分科会委員)

(提案 11)

公開シンポジウム「学士課程教育における地域研究分野の参照基準」の開催について

1. 主催 日本学術会議地域研究委員会地域研究基盤整備分科会
2. 日時 平成26年2月12日(水) 10:00 ~ 12:00
3. 場所 日本学術会議講堂
4. 分科会の開催 開催予定
5. 開催趣旨

日本学術会議は、文部科学省高等教育局長からの審議依頼に応じて平成22年にとりまとめた回答「大学教育の分野別質保証の在り方について」に基づき、自ら教育課程編成上の参照基準を策定する作業を、関連する分野別委員会においておこなっている。

地域研究委員会は「地域研究基盤整備分科会」において審議をおこない、このたび「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 地域研究分野」の原案がまとめられた。参照基準は、地域研究ならびにその関連分野の教育課程を設置する大学において広く利用していただくことが期待されている。このシンポジウムは、日本学術会議内外から広く意見をいただき、それを最終案に反映させるために開催するものである。

6. 次第

挨拶・全体説明

田中 耕司* (日本学術会議第一部会員、京都大学学術研究支援室室長 (特任教授))

I. 報告 (10:10~11:30)

小松 久男* (日本学術会議第一部会員、東京外国語大学大学院総合国際学研究院特任教授)

羽場久美子* (日本学術会議第一部会員、青山学院大学大学院国際政治経済学研究科教授)

木宮 正史* (日本学術会議連携会員、東京大学大学院情報学環教授)

志摩 園子* (日本学術会議連携会員、昭和女子大学大学院生活機構学研究科教授)

II. 討論 (11:30~12:00)

コメント

遅野井茂雄*（日本学術会議連携会員、筑波大学大学院人文社会科学研究所教授）
北原 和夫（日本学術会議特任連携会員、東京理科大学大学院科学教育研究
科教授）

7. 関係部の承認の有無：第一部承認

(*印の講演者等は、主催分科会委員)

(提案12)

公開シンポジウム「若手研究者ネットワーク活用に向けて—若手研究者をめぐる諸問題へのとりくみと学際融合による研究の創出」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 若手アカデミー委員会 若手研究者ネットワーク検討分科会

2. 日 時：平成 26 年 3 月 7 日(金)13:00～15:20

3. 場 所：日本学術会議講堂、6-C(1)(2)(3)会議室

4. 分科会の開催：あり

5. 開催趣旨

若手アカデミー委員会若手研究者ネットワーク検討分科会は、学協会の若手の会代表者からなるネットワーク構築を進めてきた。本ネットワークは、分野を越えた日本初の大規模若手研究者のネットワークを目指しており、若手研究者ならではの学際融合の新たな研究創出や、行政の動きを鑑みて必要な時に若手の意見を集約しアピールする活動を目指している。これまで、ネットワークに参加する若手の会代表が集まるアニュアルミーティングや代表者会議を運営し、平成 25 年秋には改正労働契約法についての若手研究者の意見集約を行ってきたが、その存在はまだ広く知られることにはなっていない。ネットワークの実質的な運用が始まり 1 年となる平成 26 年 3 月を機に、若手研究者ネットワークの存在を広く周知し、その活用について議論を行うことを目標に公開シンポジウムを開催する。

6. 次 第

13:00 開会の挨拶

駒井 章治（日本学術会議特任連携会員、奈良先端科学技術大学院大学
准教授）

報告

13:10 蒲池みゆき*（日本学術会議連携会員、工学院大学情報学部准教授）

「若手ネットワークの継続的運用と拡充に向けて」

- 13:30 大西 隆（日本学術会議会長・第三部会員、東京大学名誉教授、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特別招聘教授）
「学術会議の若手問題への取り組み」
- 13:50 松尾 泰樹（文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課長）
「我が国の科学技術人材政策と若手研究者の育成」
- 14:20 総合討論
- 15:20 閉会の挨拶
蒲池みゆき*（日本学術会議連携会員、工学院大学情報学部准教授）
- 司会 横山 広美*（日本学術会議特任連携会員、東京大学大学院理学系研究科准教授）

（*印の講演者等は主催分科会委員）

(提案13)

公開シンポジウム「子どもの動きの獲得に必要な運動・身体活動」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 健康・生活科学委員会 健康・スポーツ科学分科会
2. 日 時：平成26年3月10日(月)13:00～16:30
3. 場 所：日本学術会議講堂
4. 分科会の開催：あり
5. 開催趣旨

日本学術会議健康・スポーツ科学分科会は平成23年に提言「子どもを元気にする運動・スポーツの適正実施のための基本指針」を発出し、体力の健全な発達を促すための適切な運動・スポーツに関する提言をした。

子どもの健全な発育は体力の発達ばかりではなく、基本的な動作、とくに巧みで、上手な動きの発達を促す必要がある。最近、我が国の子どもにおいて転倒事例が増えている。これは、幼児期から青少年期における確実な動きの獲得が十分行われていなかったことが一因と考えられる。このような現状は、青少年期における体力の正常な発達を妨げたり、人生に彩りを与えるスポーツを安全に楽しむ機会さえ奪う可能性がある。そこで、本シンポジウムでは、身体活動量の低下した現代の子どもが実施すべきスポーツ・運動・身体活動について、動きの正常な発達を促すという観点から議論する。

6. 次 第

13:00 はじめに

田畑 泉* (日本学術会議第二部会員、立命館大学スポーツ健康科学部教授)

13:10 子どものスポーツ

川淵 三郎 (首都大学東京理事長、日本サッカー協会最高顧問)

13:40 子どもの身体活動・動きの重要性

宮地 元彦* (日本学術会議連携会員、国立健康・栄養研究所健康増進

研究部長)

- 14 : 00 子どもの動きと脳
野崎 大地* (日本学術会議連携会員、東京大学大学院教育学研究科教授)
- 14 : 20 子どもの動きを支える筋力
川上 泰雄* (日本学術会議連携会員、早稲田大学スポーツ科学学術院教授)
- 14 : 40 子どもの動きの男女差
加藤 謙一 (宇都宮大学教育学部教授)
- 15 : 00 子どもの動きの研究状況
阿江 通良* (日本学術会議連携会員、筑波大学体育科学系教授)
- 15 : 20 全体討議
司会 田原 淳子* (日本学術会議連携会員、国土舘大学体育学部教授)
- 16 : 00 総括
福永 哲夫* (日本学術会議連携会員、鹿屋体育大学学長)
田口 貞善* (日本学術会議連携会員、立命舘大学スポーツ健康科学部客員教授)

7. 関係部の承認の有無：第二部承認

(*印の講演者等は主催分科会委員)

公開シンポジウム「先端計測2014」の開催について

1. 主催：日本学術会議総合工学委員会・電気電子工学委員会合同 IMEKO 分科会
2. 開催日時：平成26年3月11日（火）10：00～17：00
3. 場所：日本学術会議講堂

4. 開催趣旨：

計測技術は非常に広い分野に関連する横型技術で科学技術の最先端から日常生活にわたる基礎技術として非常に重要な役割を果たしている。

計測技術は本来個別の問題解決のために創出あるいは開発されることが多い。そのため、それぞれの分野において急速な進歩発展を遂げつつあるにもかかわらず、横型技術の宿命で、縦型の専門分野の中で固有技術として埋没し、技術の本質が充分明確にされないのは大きな損失である。

本シンポジウムは特に計測と関係の深い関連学会が多数協力し、広い分野で有効な計測理論、手法、装置、システム構築などに関する最新の知見を定期的に発表討論して共通の技術資産とすることを目的とする。

それによって計測の進歩はもとより応用分野の発展を促進する。

5. 次第：

10:00-10:10 開会挨拶

舘 暲*（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科特任教授）

10:10-11:00 講演 「バイオニック心臓病学（仮題）」

砂川 賢二（日本学術会議連携会員、九州大学大学院医学研究院臨床医学部門循環器内科学分野教授）

11:00-11:50 講演「マイクロフルイディックエンジニアリングの進展とその応用」

庄子 習一（早稲田大学理工学術院電子光システム学科教授）

13:10-14:00 基調講演「高速知能化センシングの未来 ―高速ビジョンの応用展開―」

石川 正俊* (日本学術会議連携会員、東京大学大学院情報理工学系研究科教授)

14:00-14:50 講演「遠隔ハプティクス (仮題)」

大西 公平 (日本学術会議連携会員、慶應義塾大学理工学部システムデザイン工学科教授)

15:10-16:00 講演「赤外線温度計測に基づく鋼橋梁の疲労き裂検出ならびに構造健全性評価手法の開発」

阪上 隆英 (神戸大学大学院工学研究科機械工学専攻教授)

16:00-16:50 講演「画像による分光反射率センシングと蛍光分光特性推定」

佐藤 洋一 (東京大学生産技術研究所教授)

6. 関係部の承認の有無：第三部承認

(*印の講演者等は、主催分科会委員)

(提案15)

公開シンポジウム「食品安全分野におけるレギュラトリーサイエンスの役割と課題」の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会・食料科学委員会・健康・生活科学委員会合同食の安全分科会、食料科学委員会獣医学分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：未定
4. 日 時：平成26年3月14日（金）13:30～17:00
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

日本の食品安全行政は、平成15年に食品安全基本法が制定され、関連行政組織が刷新されて以降、10年が経過した。この間、科学的知見にもとづきリスクを管理するためのリスクアナリシスの枠組みが導入され、リスク管理機関およびリスク評価機関により定着がはかれてきた。このような食品安全行政を進めるためには、科学的なデータや知見、手法の開発を支えるレギュラトリーサイエンスとよばれる新たな科学領域の確立が不可欠であり、関連する自然科学・人文社会科学の連携が必要とされる。あわせて、リスク管理機関、評価機関はもとより、事業者等においても、高度な専門能力をもつ人材の幅広い養成が必要であり、これら人材を養成する職業内研修および高等教育機関の役割が重要である。

食品安全行政における科学的知見の活用とそのあり方に関しては、食の安全分科会としても、レギュラトリーサイエンスの役割と課題についての提言として取りまとめてきたところである。わが国において、今後どのようにレギュラトリーサイエンスを確立し、専門人材の育成をはかるか、多角的な視点から検討する。

8. 次 第：

13:30 開会挨拶

吉川 泰弘*（日本学術会議第二部会員、千葉科学大学副学長）

13:40 解題

新山 陽子*（日本学術会議連携会員、京都大学大学院農学研究科教授）

14:00 リスク管理機関におけるレギュラトリーサイエンスの活用と必要な人材の育成

山田友紀子（元農林水産省技術総括審議官）

14：30 リスク評価からみたレギュラトリーサイエンスと専門人材の育成
小坂 健（東北大学大学院国際歯科保健学分野教授）

15：00－15：10 （ 休憩 ）

15：10 リスクコミュニケーションからみたレギュラトリーサイエンスと専門人材の
育成

広田 すみれ（東京都市大学メディア情報学部教授）

15：40 アカデミックサイドからみたレギュラトリーサイエンスへの取り組み
長澤 秀行*（日本学術会議連携会員、帯広畜産大学学長）

16：10 総合討論

（司会）新山 陽子*（日本学術会議連携会員、京都大学大学院農学研究科教授）

16：50 閉会挨拶

吉川 泰弘*（日本学術会議第二部会員、千葉科学大学副学長）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（*印の講演者は、主催分科会委員）

(提案16)

公開シンポジウム「大学における新たな歴史教育を求めて」の開催について

1. 主 催 日本学術会議史学委員会、史学委員会史学分野の参照基準検討分科会、歴史認識・歴史教育に関する分科会、科学・技術の歴史的理論的社会的検討分科会、歴史学とジェンダーに関する分科会、地域研究委員会、法学委員会、経済学委員会

3. 後 援 日本歴史学協会、経営史学会、日本考古学協会（予定）、美術史学会（予定）

4. 日 時 平成26年3月15日（土）13：30～17：30

5. 場 所 日本学術会議講堂

6. 分科会等 開催予定

7. 開催趣旨

「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準・史学（歴史分野）」の素案を提示し、日本学術会議関係者のみならず、広く一般の意見を聴取することを目的とする。

8. 次 第

13：30～13：50

I 経緯と趣旨説明

13：50～16：30

II テーマ別報告（各報告の題は未定）

1 「日本史」木村 茂光*（日本学術会議第一部会員、帝京大学文学部教授）

2 「外国史」桜井万里子*（日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授）

3 「考古学」常木 晃*（日本学術会議連携会員、筑波大学大学院人文社会科学部科学研究科教授）

4 「美術史」鈴木 廣之*（日本学術会議連携会員、東京学芸大学教授）

5 「科学史」佐野 正博*（日本学術会議連携会員、明治大学経営学部教授）

6 「法制史」三成 美保*（日本学術会議連携会員、奈良女子大学教授）

- 7 「経済史」 岡崎 哲二*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院経済学研究科教授）
- 8 「政治史」 羽場久美子*（日本学術会議第一部会員、青山学院大学大学院国際政治経済学研究科教授）

16:30～17:30

Ⅲ 質疑・討論

7. 関係部の承認の有無： 第一部承認

(*印の講演者等は、主催委員会及び分科会委員)

(提案17)

公開シンポジウム『第1回理論応用力学シンポジウム』～自然災害に関する力学研究の動向と課題～の開催について

1. 主 催：日本学術会議 機械工学委員会・土木工学・建築学委員会合同 IUTAM 分科会
2. 共 催（予定）：力学アカデミー、応用物理学会、化学工学会、地盤工学会、土木学会、日本応用数理学会、日本風工学会、日本機械学会、日本気象学会、日本計算工学会、日本建築学会、日本原子力学会、日本航空宇宙学会、日本材料学会、日本地震工学会、日本数学会、日本船舶海洋工学会、日本伝熱学会、日本物理学会、日本流体力学会、日本レオロジー学会、農業農村工学会、日本計算数理工学会、自動車技術会、日本混相流学会
3. 日 時：平成26年3月17日（月）13:00～17:00
4. 場 所：日本学術会議講堂
5. 分科会の開催：開催予定あり
6. 開催趣旨：

力学に関する最も権威ある国際組織である IUTAM の開催する国際会議の国内版として「理論応用力学講演会」が長年に亘って開催され、力学分野の研究の活性化に貢献してきている。本シンポジウムは、「理論応用力学講演会」の活動をさらに充実させることを目的として、力学分野の先端的研究成果に関する最新動向を共有するとともに、将来への展望について議論することを目的として、公開シンポジウムを開催する。今回は、「自然災害に関する力学研究の動向と課題」をテーマとして3件の講演と総合討論でプログラムを構成している。
7. 次 第：
 - (1) 開会の挨拶 13:00～13:15
岸本喜久雄*（日本学術会議第三部会員、機械工学委員会・土木工学・建築学委員会合同 IUTAM 分科会委員長、東京工業大学教授）
 - (2) 講演

13:20～14:10

「東北沖地震と南海トラフ地震：力学的に見た類似点と相違点」

松浦 充宏（東京大学名誉教授、統計数理研究所外来研究員）

14:15～15:05

「土砂崩れ発生の方学的メカニズム — 流体による粒状体の流動化」

佐野 理（東京農工大学教授）

15:10～16:00

「気象・気候変動予測シミュレーションにおける力学」

高橋 桂子（日本学術会議連携会員、独立行政法人海洋研究開発機構地球シミュレータセンターシミュレーション高度化研究開発プログラムプログラムディレクター）

(3) 総合討論 16:10～16:50

(4) 閉会の挨拶 16:50～17:00

和田 章*（日本学術会議第三部会員、土木工学・建築学委員会委員長、東京工業大学名誉教授）

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

(*印の講演者は、主催分科会委員)

(提案18)

公開シンポジウム「太陽光植物工場の高精度環境調節を可能にする植物生体情報計測」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 農学委員会・食料科学委員会合同 農業情報システム学分科会
2. 共 催：北海道大学大学院農学研究院、愛媛大学植物工場研究センター
3. 後 援：日本農業工学会、日本生物環境工学会、農業情報学会、農業食料工学会、農業施設学会、日本農業気象学会、生態工学会、園芸学会（予定）
4. 日 時：平成26年3月18日（火）13：30～16：30
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：開催予定
7. 開催趣旨：

大規模な農作物生産を行う太陽光植物工場の実環境調節は、コンピュータをベースにした自動制御システムが担っている。しかしながら、各環境因子の制御目標値の設定は、依然として人間（栽培管理者）の目視による植物体の観察に基づいて行われており、自動制御システムの能力を十分に発揮できているとは言い難い。本シンポジウムでは、人間の力では把握不可能なレベルのわずかな環境応答を検知する高精度植物生体情報計測技術について紹介し、高時間分解かつ高空間分解の次世代環境制御技術開発の可能性を示す。
8. 次 第：

13：30 開会の挨拶
野口 伸*（日本学術会議第二部会員、北海道大学大学院農学研究院教授）

13：40 「太陽光植物工場における環境制御の歴史 -生体情報計測の将来性-」
Prof. G. P. A. Bot（ワーゲニンゲン大学名誉教授）

14：10 「植物応答の早期検知技術としてのSCA（Speaking cell approach）の可能性」

野並 浩* (日本学術会議連携会員、愛媛大学農学部教授)

14 : 40 「時計遺伝子研究の太陽光植物工場への適用可能性」
福田 弘和 (大阪府立大学工学研究科准教授)

15 : 10－15 : 25 (休憩)

15 : 25 「LIFT (Laser-induced fluorescence transient) によるリアルタイム光
合成計測」
Prof. C. B. Osmond (ウロンゴン大学名誉客員研究員、オーストラリ
ア国立大学名誉客員研究員)

15 : 55 「太陽光植物工場におけるロボット化による高精度生体情報計測」
高山弘太郎* (日本学術会議特任連携会員、愛媛大学農学部准教授)

16 : 20 総括と閉会の挨拶
橋本 康* (日本学術会議連携会員、愛媛大学名誉教授)

16 : 30 閉会

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

(*印の講演者は、主催分科会委員)

(提案19)

公開シンポジウム「産学連携の新パラダイムー日本のモノ作り再生に向けてー」の開催について

1. 主 催：日本学術会議総合工学委員会未来社会と応用物理分科会
応用物理学会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成26年3月19日（水）13：30～17：30
5. 場 所：青山学院大学相模原キャンパス
6. 分科会の開催：なし

7. 開催趣旨

平成24年11月26日に、学術会議総合工学委員会未来社会と応用物理分科会主催のシンポジウム「日本の復興・再生に向けた産学官連携の新しいあり方」を実施した。この会議では、我が国の産学官連携の課題は明確になったものの、その解決策が見えないという次の課題が残された。一方、応用物理学会においても同様の課題を解決すべく活動をしている。これらの共通の課題を共に解決するために、学術会議と応用物理学会が共同主催でシンポジウムを開催し、大学と企業が抱える課題を応用物理に関わる産学官すべての人と共有し、従来と異なる新しい産学官連携の取り組みを紹介、またイノベーションの新しいスタイルを学術界から国や産業界に提案する契機とする。

8. 次 第：

13:30 開会挨拶

河田 聡*（日本学術会議連携会員、応用物理学会会長、大阪大学大学院工学研究科教授）

13:35 開催趣旨説明とイントロダクション

末光 眞希（東北大学電気通信研究所教授）

13:40 講演

【講演1】縮みゆく日本の物理学と物理ベンチャー-求められるイノベーション・ソムリエ-

山口 栄一（同志社大学大学院総合政策科学研究科教授）

【講演2】産業界が直面する課題の克服を目指して-環境ビジネスとイノベーション-

小山 珠美（昭和電工株式会社安全試験センター長）

【講演3】ベンチャー企業から見た産学連携

玉城 亮（CONNEXX SYSTEMS kk）

15:10-15:25 休憩

15:25

【講演4】日本の産学連携の Pros & Cons

丹羽 正昭（東北大学大学院数理物理科学研究科教授）

【講演5】地方中小都市における自助独立・継続性を重視した産学官連携による中小企業支援

岡田 基幸（浅間リサーチエクステンションセンター専務理事）

【講演6】研究開発型中小企業との産学連携-TAMA 協会の元気の出る取組-

奥村 次徳*（日本学術会議連携会員、首都大学東京大学院理工学研究科教授）

【講演7】応用物理学が生み出すベンチャー-創晶プロジェクト-

森 勇介（日本学術会議連携会員、大阪大学大学院工学研究科教授）

17:25 閉会挨拶

渡辺美代子*（日本学術会議第三部会員、未来社会と応用物理分科会委員長、独立行政法人科学技術振興機構フェロー・室長）

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

(*印の講演者等は、主催分科会委員)

(提案20)

公開シンポジウム「生物多様性保全を志向するグリーン・アグリーインフラストラクチャー— [農] の目指すべき姿の創造—」の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会農業生産環境工学分科会
2. 共 催：日本農業気象学会、日本生物環境工学会、農業施設学会、生態工学会、農村工学研究所
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成26年4月22日（火）10：00～16：50
5. 場 所：宇部市湖水ホール（山口県宇部市大字沖宇部 254 番地）
6. 分科会の開催：開催予定
7. 開催趣旨：

生態系が多様で、生物が多様であることで、私たちの命や暮らしが支えられており、多くの生き物たちと仲良く暮らす共生の心をはぐくむ事が大切である。生物多様性の保全と持続可能な利用に関して世界に蓄積した知識を活用することが必須となっており、グリーンインフラストラクチャーを基幹的手法とした災害に強い地域空間を実現しようとしている。持続可能な形で利用する自然性の高い空間としての農地や林地を活用し、生物多様性を保全し、社会の負担が少なく、多様な生態系サービスを提供して地域振興をすることは国土・国勢の未来可能性を保証するために不可欠である。本シンポジウムは、多元的共生を基軸とした地域振興のあるべき姿の創造に寄与するグリーン・アグリーインフラストラクチャーを目指す農業環境システムイノベーションの哲学的基軸、進むべき方向性および具現化すべき成果を模索するために開催する。
8. 次 第：

10:00 開会挨拶 大政 謙次*（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学
生命科学研究所教授）

10:05 趣旨説明 早川 誠而*（日本学術会議連携会員、山口大学名誉教授）

基 調 講 演

10:15～11:15 「生物多様性保全とグリーンインフラストラクチャー」

鷺谷いづみ（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学
生命科学研究科教授）

一般講演

- 11:15～11:45 「地球環境の保全と修復における微生物・植物・人類の協働」
丸本 卓哉（元山口大学学長）
- 11:45～12:15 「『農』の目指すべき姿の創造—地域環境資源の活用による持続可能な高収益農業—」
北野 雅治*（日本学術会議連携会員、九州大学大学院農学研究
院教授）
- 12:15～13:30 休憩
- 13:30～14:00 「グリーン・アグリインフラストラクチャーとして見た温室」
奥島 里美*（日本学術会議連携会員、独立行政法人農業・食
品産業技術総合研究機構農村工学研究所上級
研究員）
- 14:00～14:30 「森林における分解者シロアリを利用した生物多様性評価方法～
熱帯大規模人工林におけるシロアリ多様性調査を例に～」
竹松 葉子（山口大学農学部教授）
- 14:30～15:00 「多様性保全を目指した水生生物生息環境評価法」
関根 雅彦（山口大学工学部教授）
- 15:00～15:30 「農業・環境分野におけるリモートセンシングと空間情報解析」
大政 謙次*（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学
生命科学研究科教授）
- 15:30～16:00 「ツル飛来地周南市八代地区の農業用水路における水生動物の生
態系保全」
寺本 明広（きらら浜自然観察公園レンジャー）
深田 三夫（山口大学農学部名誉教授）
- 16:00～16:30 「宇部市における生物多様性保全の取組」
浮田 正夫（山口大学名誉教授）
- 16:30～16:40 今後の展望
橋本 康*（日本学術会議連携会員、愛媛大学名誉教授）
- 16:40 閉会挨拶 野口 伸*（日本学術会議第二部会員、北海道大学大学院農
学研究院教授）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

(*印の講演者は、主催分科会委員)

(提案 21)

公開シンポジウム「第 60 回構造工学シンポジウム」の開催について

1. 主 催：日本学術会議土木工学・建築学委員会
2. 共 催：一般社団法人日本建築学会、公益社団法人土木学会
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成 26 年 4 月 25 日（金）～4 月 26 日（土）
5. 場 所：京都大学（吉田キャンパス）
6. 分科会の開催：なし

7. 開催趣旨：

構造工学シンポジウムでは、主として土木構造・建築構造物にかかわるすべての工学技術について、目的・方法・結論等の明記された、理論的または実証的な研究論文、あるいは新しい知見を含み学術的に価値の高い、特色のある資料・調査・計画・実験・施工等、構造工学の発展に寄与すると考えられる論文の募集を行う。投稿論文のうち、査読を通過した論文の発表講演と討議、特別講演、パネルディスカッションをこのシンポジウムで行う。

21 世紀を迎えて、成長の時代から成熟期に入ったわが国では、建築・土木の建造物に求められる性能は新しい社会の動向に応じて従来にも増して複雑で多様化している。とりわけ低炭素都市・建築の実現に向けた環境負荷低減への貢献、サステナブルデザインへの取り組み、エネルギー需給が逼迫する中での対応などの社会情勢が、建造物の設計に及ぼす影響が増してきており、構造デザインがそれらの条件と如何に折り合いをつけるか、新たな解決策を求められる場面が増えている。

建造物の構造デザインにおいて本来の目標性能である安全性について見ても、地震、豪雪、豪雨、竜巻など自然による外乱が従来の設計レベルよりも増大する中で、東日本大震災の経験から機能性の維持、事業継続性の確保など、より高いレベルの性能が求められる傾向にある。

このようなわが国の建造物の設計をとりまく情勢が変わる中で、構造デザインが果たすべき役割はますます重要になっている。構造デザインの魅力と大切さを再確認するとともに、これから進むべき道と構造工学が貢献すべき役割や技術的

課題など、新たな構造デザインの方法論に資する議論を行いたい。

8. 次 第：

平成 26 年 4 月 25 日（金）

15:00～15:10 開会式

挨拶：和田 章*（日本学術会議第三部会員、土木工学・建築学委員会委員長、東京工業大学名誉教授）

園田 佳巨（九州大学大学院工学研究院社会基盤部門教授）

司会：吹田啓一郎（京都大学大学院工学研究科建築学専攻教授）

15:10～16:10 特別講演会「構造の力と形のコントロール」

講師：川口 衛（法政大学名誉教授）

司会：吹田啓一郎（前掲）

16:15～18:15 パネルディスカッション「多様な要求性能に対する構造デザインの可能性」

・主旨説明：吹田 啓一郎（京都大学大学院工学研究科建築学専攻教授）

・パネリスト講演

「エネルギー吸収部材を用いた構造デザインの可能性」

竹内 徹（東京工業大学大学院理工学研究科建築学専攻教授）

「建築の多様化に対応する構造デザインの原理」

金箱 温春（有限会社 金箱構造設計事務所代表取締役）

「多様な要求と構造デザイン」

石橋 忠良（ジェイアール東日本コンサルタンツ株式会社取締役会長）

「高速道路橋梁の構造形式決定において重視される観点」

小川 篤生（大成建設株式会社執行役員）

司会：前田 匡樹（東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻教授）

深田 宰史（金沢大学理工研究域環境デザイン学系准教授）

平成 26 年 4 月 25 日（金）～4 月 26 日（土）

一般講演（投稿論文の発表）：

「鋼モルタル板を用いた座屈拘束ブレースの実験的研究」

緑川 光正*（日本学術会議連携会員、北海道大学大学院工学研究院建築都市空間デザイン部門教授）他

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

(*印の講演者は、主催分科会委員)

(提案 2 2)

公開シンポジウム「ICT（情報通信技術）の将来展望と課題解決に向けて---
尖った人材をいかに育て、イノベーション創出につなげるか---」の開催につ
いて

1. 主 催：日本学術会議電気電子工学委員会

2. 共 催：電子情報通信学会東京支部(予定)

3. 日 時：平成26年4月30日（水）13：00～17：30

4. 場 所：日本学術会議講堂

5. 分科会の開催：あり

6. 開催趣旨：

第21期電気電子工学委員会からの提言「21世紀における電気電子工学のあり方
と果たすべき役割」を受けて、ICT分野において、いま私達はどの行動すべきか、
社会から何を期待されているか、特に、尖った人材をいかに育て、イノベーショ
ン創出につなげるかの観点から議論することを目的に本シンポジウムを開催する。

8. 次 第：

13:00 開催挨拶

吉田 進*（日本学術会議第三部会員、京都大学特任教授）

講 演（案）

13:10 「なぜいま『尖った人材』や『高度人材』が必要とされるのか？」

井筒 雅之*（日本学術会議連携会員、早稲田大学理工学術院客員教授）

13:40 「初島会議からの提言：コンセプト人材を中心として」

森川 博之（東京大学先端科学技術研究センター教授）

14:25 「慶應義塾大学 SFC における人材育成とキャンパスカルチャ」

徳田 英幸（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学大学院政策・メ
ディア研究科委員長・教授）

15:10 ～ 休憩 15分 ～

パネル討論

15:25 「尖った ICT 人材をいかに育て、イノベーション創出につなげるか」

コーディネータ :

青山 友紀* (日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授)

パネリスト :

井筒 雅之* (日本学術会議連携会員、早稲田大学理工学術院客員教授)

森川 博之 (東京大学先端科学技術研究センター教授)

徳田 英幸 (日本学術会議連携会員、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科委員長・教授)

○ 河野 隆二* (日本学術会議連携会員、横浜国立大学大学院工学研究
院教授)

○ 鳥澤健太郎 (情報通信研究機構ユニバーサルコミュニケーション研究所
情報分析研究室室長)

○ 豊田 建 (富士通人材採用センター・センター長)

(○ショートプレゼンをお願いする予定)

17:25 閉会挨拶

小柴 正則 (日本学術会議連携会員、北海道大学キャリアセンター特任
教授)

9. 関係部の承認の有無 : 第三部承認

(*印の講演者等は、主催委員会委員)

(提案23)

公開講演会「第27回環境工学連合講演会」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 土木工学・建築学委員会
2. 共 催：化学工学会、環境科学会、環境資源工学会、空気調和・衛生工学会、高分子学会、資源・素材学会、地盤工学会、静電気学会、大気環境学会、土木学会、日本化学会、日本機械学会、○日本建築学会、日本水道協会、日本セラミックス協会、日本鉄鋼協会、日本土壌肥料学会、日本分析化学会、日本水環境学会、廃棄物資源循環学会
(○印は幹事学会)

3. 後 援：なし

4. 日 時：平成26年5月12日（月）9:25～17:00

5. 場 所：日本学術会議講堂

6. 分科会の開催：なし

7. 開催趣旨：

現代社会が直面する多様な環境問題を解決するために、今後の長期的な持続可能な開発とはなにか。人間活動が地球の限界を超えているとしたとき、どのような対策を最優先すべきなのか。そのために必要なイノベーションとはどのようなものか。社会システムの変更は必要なのか。ライフスタイルを変えるのは必須なのか。さらに、地球的人類的な難問に対して、東日本大震災を経験した日本は、世界に向けて何を発言すべきか。などなどの課題に対して、合意のない現状での総合的な見解を巡った議論が必要なのではないか。このような視点が環境工学連合講演会の目指すべき一つの課題だと考え、広範囲、かつ、融合的な講演会としたい。

特に、官・学・民の研究者および技術者による学術成果、技術成果の発表、討議を通じ、バランスのとれた環境工学の発展を意図して講演会を開催する点に本環境工学連合講演会の特徴がある。

8. 次 第：

開催挨拶(9 : 25~9 : 30)

嘉門 雅史* (日本学術会議第三部会員、京都大学名誉教授、香川高等
専門学校校長)

招待講演(9 : 30~12 : 00 及び 14 : 20~17 : 00)

※午前中に 5 編、午後 6 編程度を予定している。

「震災からの復興-環境工学の役割」に関連するテーマについて、共催各学
協会からの推薦により実施する。

特別講演(13 : 00~14 : 00)

吉野 博* (日本学術会議第三部会員、東北大学名誉教授、秋田県立
大学客員教授)

講演題目：震災からの復興-環境工学の役割 (仮)

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

(*印の講演者等は、主催委員会委員)

(提案24)

公開シンポジウム「男女共同参画は学問を変えるか？」の開催について

1. 主催 日本学術会議社会学委員会ジェンダー研究分科会、複合領域ジェンダー分科会、史学委員会歴史学とジェンダー分科会、法学委員会ジェンダー法分科会、科学者委員会男女共同参画分科会
2. 日時 平成26年5月31日(土) 10:00～18:00
3. 場所 日本学術会議講堂
4. 分科会等 開催予定
5. 開催趣旨

女性の研究者が学問の世界に進出して久しい。これまで女性の少なかった理工系の分野でも女性研究者の育成が叫ばれるようになった。他方、学問の領域にジェンダー視点を持ちこむジェンダー研究も各分野でいちじるしい進展を見るようになった。にもかかわらず学問分野における男女共同参画は、かならずしもジェンダー研究とは親和性が高くないように見える。それどころか、職場の男女共同参画と同様、学問のディシプリンに影響を与えない範囲で、女性の参加が歓迎されているようにも思える。はたして、真理の奉仕者としての研究者は、ジェンダーを問わず同じ能力を発揮することが期待されているのだろうか？それとも女性が参入することによって、学問の組織、内容、アプローチ、評価基準等に何らかの変化が起きるし、また起こす必要があるのだろうか？このシンポジウムでは、女性研究者の参加が学問の世界を変容させる可能性と限界について、各分野の経験にもとづいて、真摯な検討を行いたい。

6. 次第(予定)

司会：後藤 弘子*（日本学術会議第一部会員、千葉大学大学院専門法務研究科教授）

大沢 真理*（日本学術会議第一部会員、東京大学社会科学研究所教授）
（午前の部）

10:00～10:20

趣旨説明：「男女共同参画とジェンダー研究の近くて遠い関係」

上野千鶴子*（日本学術会議第一部会員、東京大学名誉教授）

10:20～10:40

第1報告：「学術分野における男女共同参画のこれまでの取り組み状況」
小館香椎子*（日本学術会議連携会員、日本女子大学名誉教授）

10:40～11:10

第2報告：「学協会における男女共同参画の現状 大学の調査結果から」
有信 睦弘*（日本学術会議第三部会員、東京大学監事）

11:10～11:35

第3報告：「学術における男女共同参画の現状とその評価 学協会調査結果から」
新井 民夫*（日本学術会議第三部会員、芝浦工業大学教育イノベーションセンター教授）
島 直子（首都大学東京ダイバーシティ推進室特任研究員）

11:35～12:00

第4報告：「学術分野における男女共同参画の現状とその評価」
江原由美子*（日本学術会議第一部会員、首都大学東京大学院人文科学研究科教授）

12:00～13:00 休憩

（午後の部）

13:00～15:30

第1報告：「男女共同参画は社会科学を変えるか？」
足立眞理子（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授）

第2報告：「男女共同参画は人文科学を変えるか？」
和泉 ちえ（千葉大学大学院人文社会科学研究科教授）

第3報告：「男女共同参画は生命科学を変えるか？」
桃井眞理子*（日本学術会議第二部会員、国際医療福祉大学副学長）

第4報告：「男女共同参画は人工物科学を変えるか？」
中西 準子（独立行政法人産業技術総合研究所フェロー）

15:30～16:00 休憩

16:00～17:30

討論：加藤 万里子（慶應義塾大学理工学部教授）

貴堂 嘉之（一橋大学大学院社会学研究科教授）

藤垣 裕子*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院総合文化研究科教授）

17:30～18:00

閉会挨拶：まとめ「男女共同参画は学問に何をもたらすべきか？」

辻村みよ子*（日本学術会議第一部会員、明治大学法科大学院教授）

7. 関係部の承認の有無：第一部承認

（*印の講演者等は、主催分科会委員）